

---

## カメの死骸を用いた堆肥化実験の試み - 安楽死させたアカミミガメの実践的 処理方法

坂雅宏・多田哲子

京都府保健環境研究所水質課

Composting experiments using dead bodies of turtles: A practicable method to dispose of euthanized Red-eared sliders.

By Masahiro SAKA and Noriko TADA

*Division of Aquatic Environment, Kyoto Prefectural Institute of Public Health and Environment*

---

アカミミガメの防除対策において、安楽死させた後の死骸の処理方法が問題となる。冷凍庫の保管スペースにも処理費用にも限界があり、簡単にローコストで処理できる方法を確立させておく必要がある。その一つとして死骸の堆肥化があり、既に幾つかの研究機関や地方自治体において、その検討が始まっている。当所でも、専門家の助言を得ながら以下の手順により堆肥化実験を試みた。

- ①1.5m×3mの面積で干し草を積み重ね、散水しながら踏み固めて高さ50cmの土台を作る。
- ②その上に腐葉土を敷き、必要に応じて少量の尿素溶液を撒いた後、内部に酸素を送り込むための通気性パイプを2～3本設置する。
- ③腐葉土の上にカメの死骸約30kg(およそ50個体分に相当)を並べ、その上に腐葉土を重ねて完全に死骸を覆い隠す(必要に応じて少量の米糠を撒く)。
- ④高さ1mに達するまで、散水しながら干し草を積み重ね、踏み固める。
- ⑤分解の様子をモニターするため、堆肥用バイメタル温度計を設置する。

この藁積みにより、藁積み内部の温度は急激に上昇し、数日間60℃前後を維持した後、次第に低下して2週間後から40℃前後を維持した。温度変化の様子から死骸の分解が順調に進んでいることが示唆された。

1ヶ月後、藁積みを解体すると、内部の死骸はほぼ完全に堆肥化されており、一部の甲羅の欠片は残存するものの、その強度は非常にもろく、簡単に粉碎できた。この方法はローコストのほか、省スペース、悪臭やハエの大量発生が生じない等の利点をもつうえ、使用する材料の多くは、アカミミガメが生息する都市河川やため池の周辺で容易に入手できる。したがって、河川管理者や農家の協力が得られれば、地域密着型のアカミミガメ防除作業が展開できるかもしれない。